NIE実践報告

1．タイトル：☆推理する楽しみ～古生物学の魅力

2．学校名

北海道富良野緑峰高等学校

3．実践者名（代表者名）

森　伸一

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

生物Ⅰ　36人

6．単元（本時の学習課題）名

多細胞生物、遺伝

7．目標（狙い）

学習した知識や観察した体験が、思考のなかでリンクすることが学習の面白さであることから、新聞記事を読む上でも、そのことに気づかせることに配慮した。

8．評価の視点

感想・考察を提出させ、授業の効果を把握した。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

古生物についての新聞記事は、生物Ⅰの教科書の各単元には直接的な内容ではないものの、科学的な思考をはぐくむうえで重要と考え、古生物も現生の生物なしには考えることができないことを付け加えて授業を行った。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)ミョウガガイの写真と新聞記事2009の一部を抜粋し配布、何の化石であるかを推理させる。
(2)ミョウガガイの新聞記事2009を配布し、読ませる。
(3)三葉虫ではない根拠について考えさせ、解説する。
(4)「ティラノサウルス頭部化石を発掘、和名はエゾミカサリュウ」1976の新聞記事を読む。
(5)「海トカゲの新種でした」2008の新聞記事を読む。
(6)以上の新聞記事を読んで、感じたことや考えたことをまとめさせる。
(7)解説とまとめ
　(1)～(7)の内容を3コマの授業のなかでそれぞれ10分程度の時間を使い、取り扱った。
　新聞記事はノートに貼り、メモ等を書かせた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

　ミョウガガイの記事では三葉虫だと思いましたが、時代が違っていて疑問に思いました。エゾミカサリュウの記事では、その化石が何の化石なのかという分析の大切さが分かりました。

12．成果と課題

　新聞を用いた授業は、体系だてたものではなく、トピックスとして断片的に扱っているだけである。ただし、新聞記事をひとつ読むのにも、今までに自分が学習したり、体験した予備知識があると、「それぞれがつながっている」のだとの知的な喜びを味わえる。このことを実感させたいと願いながら今後も授業を展開していきたい。